

令和7年度 市長との対話集会（西津地区）議事要旨

日 時：令和7年10月2日（木） 19時00分～20時30分

場 所：西津コミュニティセンター

参加者：42名

テーマ：①新幹線と共に歩む小浜市の将来像

②地域歴史遺産（各神社の祭礼・地蔵盆）の現状・課題・伝承・将来像

1 参加者からの主な意見

（1）新幹線駅周辺の魅力創出と観光振興

- ・新駅に降りたくなるような、目を引く魅力的なコンテンツや施設整備（ホテル、レストラン等）。
- ・小浜の美味しい食を発信し、リピーターを増やす仕掛けが必要。
- ・新幹線開通後の駅周辺開発として、人口5万人を目指すベッドタウン化を推進。
- ・観光・集客の認知度向上が課題。現状「食のまち」という実感が得られにくいため、アートを活用し、視覚的に魅力が伝わるまちづくりを推進。
- ・観光地や文化施設だけでなく、門前町や商店街など周辺の賑わいと連携し、一体的な魅力の創出。
- ・「お水送り」などの歴史や物語を外部に発信し、来訪者が体験できる水関連のPRを強化。
- ・観光客のインフラとして、レンタカーに加えレンタサイクルの充実とサイクリングコースの整備。

（2）移住・定住促進と地域環境整備

- ・地域に住む場所がない（空き家はあるが住める状態ではない、駐車場がない）移住・定住が停滞。
- ・空き家を改修し移住者を募集。
- ・若者の定住促進のため、卒業後、小浜に住むことを条件に返済不要の奨学金制度を創設。

（3）祭り・地域活動の継承と活性化

- ・祭り（地蔵盆を含む）の担い手不足、跡継ぎの不在、催し物への集客不足が深刻な課題。
- ・祭りの外部へのPRが不足しており、地域外からの参加や認知が低い。
- ・地蔵盆の年齢制限撤廃や、複数の祭りの統合、日程を柔軟に変更することなど時代に合わせた祭りの改革を検討。
- ・祭りの伝統（神事）は守りつつ、伝承（内容）は柔軟に変化させるべき。隔年開催など長期的な開催間隔は伝承を難しくしている。
- ・地区外からの人員も祭りに参加できるような仕組みを検討。
- ・祭りの指導方法にデジタル化を取り入れる（笛のデジタル化など）。
- ・将来的な人口減少を見据え、祭り自体をVRで楽しむ可能性。

（4）祭りの資金調達

- ・ふるさと納税の返礼品に「祭り参加」を組み込むことや、市の補助金創設。
- ・クラウドファンディングの活用を提案。

2 市長からの主な回答

（1）新幹線開通を見据えた戦略的取り組み

- ・新幹線開通後、小浜に「降りてもらう」ための工夫が重要であり、小浜を目的地とする「小浜ブランド」の確立を推進する。小浜でしか味わえない食や体験の仕掛けづくりを検討していく。

- ・人口5万人を目指すといった具体的な目標設定は、具体的なアクションを生み出す上で重要である。
- ・新駅周辺のベッドタウン化や二拠点居住の推進は、他地区でも出ている面白い意見であり、今後のまちづくりの参考にする。
- ・観光・集客における認知度向上の重要性は認識している。特に「食のまち」を実感させる仕掛けが弱い現状を打破するため、アートと食を融合させた文化的なまちづくりは面白い発想である。
- ・まちづくりにおいて、新駅から目的地までの体験全体をデザインする「ストーリー」と「デザインコンセプト」の統一が重要である。
- ・レンタサイクルは、車では見逃しがちな地域の細かな魅力を巡る良い手段であり、街づくりのアイデアとして効果的である。

(2) 若者定住・移住促進策の強化

- ・奨学金制度については、返済の免除や猶予などの検討に加え、地域未来留学制度（若狭高校）や大学生との連携を通じて、県外からの祭り参加者や移住者を呼び込む新たなアプローチを検討。
- ・祭り好きの移住者を誘致する視点も有効であり、まずは西津地区の祭り（特に地蔵盆のような独自の魅力）をPRしていくことが重要。

(3) 祭り・地域活動の支援と改革

- ・祭りにおける担い手不足は全市共通の課題であると認識。地域に住んでもらうことが解決策の一つであり、空き家対策については引き続き取り組んでいく。
- ・西津地区の祭りが持つ「コンパクトさ」や「住民の繋がり」といった独特的の良さを、外部へのプロモーションに活用することで担い手不足の解消に繋がる可能性がある。
- ・地蔵盆の年齢制限撤廃や複数化、祭りの統合や日程変更といった新しい発想は、地域の進化に繋がる可能性があり、今後地域内で議論を進めていただきたい。
- ・祭りの資金調達については、クラウドファンディング、担ぎ手募集（放生祭りの事例）など、多様な方法が検討できる。
- ・伝統（神事）と伝承（内容）の違いを認識し、伝承の部分で地域のイベントで披露する場を設けるなども有効な手段である。